



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: Nihon Nogyo Shimbun (18 June 2017, Japan)

Page: 2

2017年(平成29年)6月18日(日曜日) 日本農業新聞

米の品質管理 日本から学ぶ 輸出拡大へミャンマー

ミャンマー政府は、米の産業振興に力を入れている。その一環として、国際機関のアジア生産性機構（APO）の支援事業を受け、日本に米産業界を視察団を派遣した。米の生産から流通販売までの日本の先進的な取り組みを受け、米産業界を底上げするためだ。輸出拡大につなぐ狙いもある。

同国は、かつて世界有数の米輸出国。1960年代には年間170万トンを輸出した。しかし、タイやベトナムの台頭に伴い、輸出量は激減し、一時は、年間輸出量が2万トにも満たなかった。輸出量は現在、年間160万トまで回復しているものの、輸出先は、中国や南アフリカなどに限られている。品質管理が追い付かないためだ。

そのため政府は、輸出先市場の食品の安全、品質の管理などに対する要求事項を確認し、それに合う供給体制を構築する方針だ。具体策として、先進的な機械や施設を導入し、日本商社との

水牛を主力に田植えを準備する農家（6月、ミャンマー・ネビドーで「BPA時事」）

連携も強めている。視察関係者は「視察から得た先進的な知見や技術の適切な利用方法を通して、中長期的には稲作の生産性だけではなく、品質・安全性の向上を実現したい」と話す。視察団は、同国の農水省や米穀協会、国営農産公社などの関係者14人で、愛知県JAあいち知多のJAあぐりタウンげんきの郷や、広島県のサタケなどを訪問した。

